

研究活動



「戦争災害研究室」を中心に、空襲や被災体験の記録を収集・整理して分析することや空爆をめぐる論考の検討など、さまざまな研究活動を続けています。研究会やシンポジウムも随時開催し、報告書や『岩波DVDブック』などのかたちでその成果を発表。空襲体験者の「証言」を映像で記録する企画も始まりました。

出版活動

空襲体験者への聞き書きやイベントの内容をまとめた小冊子など、各種の出版物を刊行しています。当時を偲んで歩くためのガイドブック『戦災資料センターから東京大空襲を歩く』が好評で、これを手にゆかりのある場所を訪れる方も増えています。



イベントと交流

毎年3月10日前後に、ゲストによる講演や若い世代の活動を紹介する「東京大空襲を語り継ぐつどい」を開催。平和を願う多くの方々に参加いただいています。このほか、夏の「親子企画」や



5月5日の「世界の子どものための平和像」記念の集い、写真展・絵画展などの「特別展」を開催し、地元江東地域をはじめ、市民のみなさんとの交流を深めています。

維持会員・維持募金

当センターは、多くのみなさんからの募金によって維持・運営されています。維持会員（年会費個人：1口2,000円、団体・法人：1口10,000円。1口から何口でも）になってくださった方には、年2回発行の機関誌『戦災資料センターニュース』をお届けするとともに、入館協力費が無料になります。郵便振替口座：「00170-6-123225」、加入者名：「東京大空襲・戦災資料センター」までお願いします。



交通案内

- ▼JR「秋葉原駅」中央改札口を出て左の2番バス乗り場から、都バス《葛西駅行き》(秋26)で35分、「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼JR「錦糸町駅」南口3番バス乗り場から、都バス《東陽町行き/東京駅丸の内北口行き》(東22)で「扇橋2丁目」下車、徒歩10分
- ▼東京メトロ東西線「東陽町駅」四つ目通り側5番乗り場から、都バス《錦糸町行き》(東22)で「扇橋2丁目」下車、徒歩10分
- ▼JR・東武「亀戸駅」2番バス乗り場から、都バス《なぎさニュータウン行き/葛西駅前行き》(亀29)で「北砂3丁目」下車、徒歩7分
- ▼東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」3番バス乗り場から、都バス《葛西駅行き》(秋26)で「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼東京メトロ東西線「葛西駅」3番バス乗り場から、都バス《秋葉原駅行き》(秋26)で20分、「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼都営地下鉄新宿線「住吉駅A4出口」、または「西大島駅A1出口」から、徒歩18分
- ▼東京メトロ半蔵門線「住吉駅B1出口」から、徒歩15分

※清洲橋通りの「岩井橋東詰交差点」、岩井橋クリニックの隣りです



東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4
Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326
Web: <http://www.tokyo-sensai.net/>
維持募金郵便振替口座：00170-6-123225



未来へと語り継ぐ戦争の惨禍と、平和への願い

東京大空襲・戦災資料センター

The Center of the Tokyo Raids and War Damage

館長 早乙女勝元
財団法人 政治経済研究所



東京大空襲・戦災資料センター

1945年9月、戦災資料センター周辺の航空写真(米軍撮影)

いのちと平和のバトンを、未来にきちんと受け渡すために

1945年（昭和20年）3月10日の未明、約300機のアメリカ軍爆撃機B29による東京下町地区を目標にした無差別爆撃で、人口過密地帯は火炎地獄と化し、罹災者は100万人をこえて、推定10万人もの尊い命が失われました。3月10日を含め、東京は100回以上もの空襲を受けて、市街地の5割を焼失したのです。

「東京空襲を記録する会」は1970年より、この空襲・戦災の文献や物品を広く収集してきましたが、1999年に東京都の「平和祈念館」建設計画が凍結となりました。そこで、「記録する会」と財団法人 政治経済研究所は、やむにやまれぬ思いで民間募金を呼びかけ、4000名をこえる方々の協力によって、2002年3月9日、戦禍のもっとも大きかった地に当センターを完成させることができました。用地は一篤志家から無償提供され

たものです。

2007年3月には、多くの皆さんの熱いご支援により、さらに増築を実現し、展示を充実させて、修学旅行生など若い世代の「学びの場」としての環境が整いました。

特別展示や戦争災害の調査・研究を始めとして、子どもから大人まで、いのちの貴さを基本に、「知っているなら伝えよう、知らないなら学ぼう」の精神で、当センターを大いに活用していただきたいと思います。戦争・空襲の惨禍をふたたび繰り返すまじの決意で、民間人の蒙った戦禍を風化させることなく未来に継承し、平和を願う人たちの交流にも役立ちますようにと、心から願っています。

東京大空襲・戦災資料センター 館長 早乙女勝元



河野新さん制作の母子像「戦火の下で」

東京の中・高校生たちが、原爆や空襲の被爆体験に学びながら彫刻のプランを公募し、けんめいに募金を集めて完成させた「世界の子どもの平和像（東京）」



集束焼夷弾の原寸模型。空中で外殻が外れて38本のM69焼夷弾がバラまかれます



焼け焦げた子どもの着物



左：高熱で溶けた瓦と皿

右：母に背負われ逃げまどった赤ん坊の帽子とほ乳瓶、手提げかばん

2階の会議室では、映像資料を観たり、団体参観でご要望があれば、体験者のお話をうかがうことができます。また壁面には空襲を描いたさまざまな絵画や被災地図、日本や世界の空襲の写真などがあり、当時の惨状を伝えています。



「戦争と子どもたち」の部屋は、戦中教育や学童疎開などをテーマにしています



早乙女館長の著作と活動、民間人の補償要求運動、空襲記録運動、空襲研究成果の交流など、「戦争と平和を考えるコーナー」

3階の資料・展示保管室では、実際に投下された焼夷弾をはじめ、空襲の写真や被災品、体験者の手記、戦時下の文書などが、東京大空襲の実相を伝えています。



灯火管制下の暮らしぶりを再現した部屋です



東京空襲の計画やその結果を記録しているアメリカ軍の「作戦任務報告書」

開館要項

開館日時 水曜日～日曜日 12時～午後4時

休館日 月曜日・火曜日

年末年始（12月28日から1月4日）

※3月9日・10日は曜日にかかわらず開館します

協力費 一般 300円

中・高校生 200円

小学生以下 無料

※10名以上の団体の方は、事前にご連絡ください

※学校等の団体の場合は、開館時間外や休館日でもご相談に応じます

※車椅子用エレベーターおよびトイレがあります

※駐車場はありません

